

ミッキーファイト Mikki Fight

牡 栗毛 2021.5.5生
北海道安平町 ノーザンファーム生産
馬主・野田みづき氏 美浦・田中博康厩舎
馬名意味・冠名+がんばれ

バロクサイドGB系 F8-F

ドレフォンUSA Drefong 鹿毛 2013	Gio Ponti 鹿毛 2005	Tale of the Cat Chipeta Springs
	Eltimaas 鹿毛 2007	Ghostzapper Najecam
スペシャルグループ 栗毛 2007	スペシャルウィーク 黒鹿毛 1995	サンデーサイレンスUSA キャンペンガール
	ソニックグループ 鹿毛 2003	フレンチデピュティUSA エアグループ

5代までのインブリード：Deputy Minister M4×S5

INTERVIEW

高見優也 厩舎長(ノーザンファーム空港)

育成時から力強さが目立っていました

兄グルーヴィットの育成も手掛けていましたが、この馬はドレフォン産駒ということもあるのか、育成時から力強さが目立っていました。馬体の印象としては、芝でも充分やれるのではないかと思っていましたが、ダートで強いレースを見せてくれました。ジャパンダートクラシックが目標となりますが、兄のジュンライトボルトのようにG I馬になってほしいです。

S.Suzuki



ジュンライトボルトの半弟にあたる本馬は昨年10月の新馬戦を快勝、続く1勝クラス戦では2着のブルーサンに5馬身差をつける圧勝劇を演じ、脚光を浴びた。無傷の3連勝に挑んだユニコーンSは馬群に包まれて脚を余した格好で3着に敗れ、東京タービーへの出走は逃したものの、この日は一枚上の地力をアピール。本番の優先出走権を獲得し、春の雪辱もかかる秋の最後の1冠へ名乗りをあげた。

父ドレフォンUSA

北米9戦6勝(BCスプリント^{G1}、キングズビショップ^{S^{G1}}、フォアゴース^{S^{G1}})、米チャンピオンズプリンター、18年から供用
〔代表産駒〕**ジオグリフ**(皐月賞^{G1}、札幌2歳^{S^{Gm}})、**アンデスビエント**(関東オークス^{J^{II}})、**ミッキーファイト**(本馬)、**デシエルト**(若葉^{S・L}、グリーンチャンネル^{C・L})、**コンシリエーレ**(オアシス^{S・L}、カトレア^{S・Op}、サウジダービー・沙^{G3}3着)、**サーマルウインド**(信越^{S・L})、**ワープスピード**(阪神大賞典^{G2}2着)、**ウォーターリヒト**(きさらぎ賞^{Gm}2着)、**タイセイドレフォン**(レパード^{S^{Gm}}2着)、**マスクオールウィン**(フェアリー^{S^{Gm}}2着)、**ヒストリックノヴァ**(エーデルワイス賞^{J^{III}}2着)、**カワキタレプリー**(NHKマイル^{C^{G1}}3着)

母スベシャルグループ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央2戦0勝
ドリームチェイサー(12 牝父ハービンジャーGB)中央14戦1勝
フェイスベロシティ(13 牝父キングカメハメハ)中央26戦3勝(グッドラックH)
カヴェルナ(15 牝父キングカメハメハ)不出走
グルーヴィット(16 牝父ロードカナロア)中央25戦4勝(中京記念^{Gm}、タンザナイト^{S^{Op}}、ファルコン^{S^{Gm}}2着、北九州短距離^{S^{Op}}2着、京王杯スプリング^{C^{Gm}}3着、春雷^{S・L}3着)

ジュンライトボルト(17 牝父キングカメハメハ)中央25戦7勝(チャンピオンズ^{C^{G1}}、シリウス^{S^{Gm}}、BSN賞^L、むらさき賞、軟ケ池特別、フローラルワーク賞、ジュライ^{S・L}2着、橘^{S・L}2着)、地方1戦0勝、首、沙2戦0勝、種牡馬

(18 牝父ロードカナロア)
ピュアグループ(20 牝父ドレフォンUSA)中央9戦2勝 ㊟
ミッキーファイト 本馬(21 牝父ドレフォンUSA)中央4戦3勝(レパード^{S^{Gm}}、ユニコーン^{S^{Gm}}3着) 獲得総賞金61,915,000円
ヤノマスティロ(22 牝父ロードカナロア) ㊟

(24 牝父レイデオロ)
※14、19、23(不受胎)

祖母ソニックグループ

北海道早来町 ノーザンファーム生産 不出走
スペシャルグループ(07 前出)
アドマイヤキंकク(10 牝父ディーインパクト)中央2勝、地方0勝
フランドル(13 牝父キングカメハメハ)中央3勝、障害2勝

最後の1冠へ期待が高まる重賞初勝利

中央と地方が一体になり、今年から新たに「三冠」のレース体系が整備された3歳のダート路線。10月に行われる最後の1冠・ジャパンダートクラシックのトライアルと位置付けられた新潟のレパードSには、秋の大舞台を目指す多彩な顔触れが集結したなか、ユニコーンS(1番人気3着)からの巻き返しを期すミッキーファイトが断然の支持を集めた。ダートGI馬の半弟にあたる良血馬は背負った期待に違わぬパフォーマンスを披露。危なげのない取り口で軌道修正の勝利を飾り、初のタイトルを手中に収めた。

先手を奪ったのは2月の雲取賞を逃が切ったブルーサン。最内枠からスタ

ートを決め、軽快なダッシュで飛び出したミッキーファイトの戸崎圭太騎手は、緩みのないラップを刻んで風を切る逃げ馬を見遣りながら、3番手に腰を落ち着ける。1勝クラス戦とオープン特別を連勝し、2番人気に支持されたソニックスターは中団の外を追い走。未勝利戦から古馬混合の2勝クラス戦まで3連勝中、3番人気のジーサイクロンはスタート直後に躓いて流れに乗れず、後方2番手を進んだ。

そんな後続を尻目に向正面で2番手のサトノフェニックスの外へ誘導。早々に追撃態勢を整えた戸崎騎手は楽な手応えを保ったまま、前の2頭に迫っていく。直線に向いて本格的に仕掛けると、十分な余力を残していたミッキーファイトも手応え通りの末脚を發揮。2番手追走から抜け出したサトノフェニックスを残り100m地点で捉え、最後は1馬身差をつけて、ゴールに飛び込んだ。

ジュンライトボルトの半弟にあたる本馬は昨年10月の新馬戦を快勝、続く1勝クラス戦では2着のブルーサンに5馬身差をつける圧勝劇を演じ、脚光を浴びた。無傷の3連勝に挑んだユニコーンSは馬群に包まれて脚を余した格好で3着に敗れ、東京タービーへの出走は逃したものの、この日は一枚上の地力をアピール。本番の優先出走権を獲得し、春の雪辱もかかる秋の最後の1冠へ名乗りをあげた。